

京都国立博物館国際シンポジウム プログラム

敦煌写本研究の現在

2022年3月19日（土）10時～17時

主催 京都国立博物館

共催 セインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）

オンライン ZOOM ウェビナー

日本語・英語・中国語同時通訳

シルクロードは近代以前においてユーラシアの東西南北を結んだ高級商品流通のネットワークであり、またそれは政治・経済・宗教といった文化交流の舞台に他ならない。そこで形成された多様に富むシルクロード文化は現代においても人々を魅了し、世界各国において展示紹介・研究がなされている。

本シンポジウムはそのシルクロードの要所である敦煌近郊の莫高窟より 1900 年に発見された敦煌写本を討論対象とするものである。敦煌写本は発見以来、イギリス・フランス・日本・ロシアの探検隊により持ち帰られ、その研究には各国の所蔵機関・研究者との連携が不可欠であることは言を俟たない。京都国立博物館も 90 巻余りを所蔵しており、その一端を担う立場にある。ただし、今から 40 年前、林屋辰三郎館長より館蔵する敦煌写本の調査を依頼された藤枝晃氏（京都大学名誉教授）によって、その殆どは偽写本であり、また古玩舗を通じて日本に齎された敦煌写本の 90% 以上は偽写本であるとの見解が示された（『徳化李氏凡将閣珍藏』印について『学叢』7、1985）。これ以降、偽写本問題への関心が高まり、1997 年には国際敦煌プロジェクト（IDP）において「二十世紀初期における敦煌写本の偽写本について」がスーザン・ウィットフィールド氏（大英図書館東洋写本部。現 セインズベリー日本藝術研究所教授）をディレクターとして開催された。

それから四半世紀を経た現在、改めてスーザン・ウィットフィールド氏を迎え、各国のシルクロード文化研究の現状を踏まえ、日本国内の敦煌写本が抱える偽写本問題について各国の研究者と協議し、今後の敦煌写本研究の在り方を模索するものである。

ZOOM 登録

https://zoom.us/webinar/register/WN_NmDMYgq_TeKD-KrijE8DZw



タイムテーブル

2022年3月19日(土) 日本時間

10:00-10:05 開会挨拶

松本伸之(京都国立博物館長)

10:05-10:20 趣旨説明

上杉智英(京都国立博物館研究員)

10:20-11:00 シルクロード研究の現状

「敦煌に関する貴重な写真資料—プリンストン大学ロー・アーカイブについて」

ドラ C.Y. チン(經崇儀)(プリンストン大学 タン東アジア美術史研究センター副センター長)

「**BuddhistRoad**プロジェクトの研究プログラム—東部中央アジアにおける仏教の伝播 6~14世紀」

カルメン マイナルト(梅開夢)(ルール大学ボーフム教授、ERC BuddhistRoad PI プロジェクト長)

「敦煌とシルクロード—研究・教育への道」

サンジョット メヘンダレ(カリフォルニア大学バークレー校 唐シルクロード研究センター長)

11:00-11:10 休憩

11:10-12:00 基調講演

「本物か偽物か?敦煌写本への再論」

スーザン ウィットフィールド(魏泓)(イースト・アングリア大学セインズベリー日本藝術研究所教授)

12:00-13:00 昼休憩

13:00-14:30 研究発表

「「徳化李氏凡将閣珍藏」本の再検討」

上杉智英(京都国立博物館研究員)

「敦煌文書の紙の非破壊分析」

坂本昭二(龍谷大学世界仏教文化研究センター研究員)

「杏雨書屋蔵敦煌写本の真偽判定—世界各地の所蔵品との関連性に着目して」

定源(王招国)(上海師範大学哲学系准教授)

14:30-14:40 休憩

14:40-15:40 研究発表

「京都国立博物館蔵敦煌写経の旧蔵印について」

岩本篤志（立正大学文学部准教授）

「敦煌写本を日本に持ち込んだ書商たち」

高田時雄（京都大学名誉教授）

15:40-15:50 休憩

15:50-16:50 討論

赤尾栄慶（京都国立博物館名誉館員）

スーザン ウィットフィールド

研究発表者

16:50-17:00 閉会挨拶

サイモン ケイナー（イースト・アングリア大学 セインズベリー日本藝術研究所長）

発表者プロフィール

スーザン ウィットフィールド（魏泓）博士は、イースト・アングリア大学セインズベリー日本藝術研究所（SISJAC）のシルクロード研究教授、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの考古学研究所の名誉准教授。大英図書館の中央アジア写本主任研究員として、国際敦煌プロジェクト（IDP）の創立に携わり、長年プロジェクトディレクターを務めた。その間、敦煌をはじめとする中央アジア東部の写本や遺物を所蔵する世界中の 30 以上の機関と協力関係を築き、これらのコレクションをより広く利用できるように支援を行う。また、敦煌偽写本に関するシンポジウムを含め多くの学術会議やワークショップを開催し、その予稿集の編集を行う。その他にも数多くの著書や論文を出版し、大規模な国際展を企画し、世界中の学者や聴衆に講演を行ってきた。現在は、SISJAC の「奈良からノリッチへ」プロジェクトや、ホータンの歴史に関する研究を行っている。

ドラ C.Y. チン（經崇儀）博士は、プリンストン大学タン東アジア美術史研究センター副センター長。ハーバード大学にて学士号、プリンストン大学にて博士号を取得。専門分野は中国書画史。20 年以上にわたり、書籍の編集と出版に深く携わっており、共同編集者または編集長として 10 冊以上の著作がある。また、数多くの著書や論文を執筆し、複数の大規模展覧会も共同企画した。プリンストン大学では、「中国の肖像画」や「敦煌—シルクロードの仏教美術と文化」などのテーマで講義を行っている。最近の研究プロジェクトは、1943 年から 44 年にかけて中国北西部の仏教洞窟で撮影された敦煌

の写真、Lo Archive of Dunhuang Photographs に焦点を当てたものである。この写真は、4 世紀から 14 世紀までの 1000 年間に描かれた洞窟画や彫刻の記録として、ユニークで美的に洗練されており、歴史的にも貴重なものである。

カルメン マイナルト（梅開夢）博士は、ドイツ、ルール大学ボーフム校 CERES の中央アジア宗教教授と ERC プロジェクト BuddhistRoad の PI（プロジェクト長）。仏教学、チベット学、中国学を学び、中央アジア宗教の分野をより体系的に発展させ、比較宗教学という大きな枠組みの中で中央アジアとチベットの研究を統合することを目指している。近著に以下のものがある。Meinert, Carmen and Henrik H. Sorensen, ed., 『*Buddhism in Central Asia I-Patronage, Legitimation, Sacred Space, and Pilgrimage*』（中央アジアの仏教 I—庇護、正統性、聖域、巡礼）（Leiden: Brill, 2020）; Heirman, Ann, Carmen Meinert, and Christoph Anderl, ed., 『*Buddhist Encounters and Identities across East Asia*』（東アジアにおける仏教的出会いとアイデンティティ）（Leiden: Brill, 2018） and Meinert, Carmen, ed., 『*Transfer of Buddhism across Central Asian Networks (7th to 13th Centuries)*』（中央アジアにおける仏教の伝播、7～13世紀）（Leiden: Brill, 2016）

サンジョット メヘンダレ博士は、美術史家・考古学者で、紀元後初期ユーラシア大陸の交流ネットワークに関心を寄せている。オランダのライデン大学でインド・イラン美術と考古学の博士号を、カリフォルニア大学バークレー校で中近東・中央アジア美術と考古学の博士号を取得した。1997 年以来、カリフォルニア大学バークレー校でこの分野の研究を行い、教鞭をとっている。ウズベキスタンでのプロジェクトを指揮し、2008 年からはスリランカで貿易のネットワークと仏教の伝播の關係に焦点を当てたフィールドワークに従事している。2017 年、カリフォルニア大学バークレー校に新設された「唐シルクロード研究センター」の初代センター長に就任。教育省フルブライト・ヘイズ・グループ・プロジェクト・アブロード助成金、そして 2025 年にサンフランシスコ・アジア美術館で開催されるシルクロード展の全米人文科学基金企画助成金の PI（プロジェクト長）も務めている。古代シルクロードの交易ネットワークに関する論文も執筆している。最新作は 2022 年にアムステルダム大学出版局から出版予定の『*The Maritime Silk Road: Global Connectivity, Regional Nodes, and Materiality*』（海上シルクロード グローバルな連結性、地域の結節点、そしてマテリアリティ）（編著）。

上杉 智英博士は、京都国立博物館研究員。国際仏教学大学院大学にて博士号（文学）取得。国際仏教学大学院大学日本古写経研究所主任研究員を経て 2019 年より現職。専門分野は仏教文献学。日本に伝存する古写経と敦煌写経、宋版大蔵経の内容を比較対照し、テキスト変遷の軌跡を明らかにすべく調査・研究に取り組んでいる。主要業績として共著『京都国立博物館蔵 国宝 漢書楊雄伝第五十七』（2019）、共著『日本古写経善本叢刊第四輯 集諸経礼懺儀卷下』（2010）などがある。

定源（王招国）博士は、上海師範大学哲学系准教授。国際仏教学大学院大学にて博士号（文学）取得。国際仏教学大学院大学日本古写経研究所研究員を経て 2013 年より現職。専門分野は敦煌写本と日本古写経。中国国家社会科学基金プロジェクト「杏雨書屋蔵敦煌遺書編目と研究」において杏雨書屋蔵敦煌遺書目録を作成し、高い評価を受けている。主要業績として『敦煌本「御注金剛般若経宣演」の文献学的研究』（2013）、『佛教文献論稿』（2017）などがある。

坂本 昭二博士は、龍谷大学世界仏教文化研究センター研究員。龍谷大学にて博士号（工学）取得。大英図書館特別研究員、フランス国立図書館客員研究員等を経て 2016 年より現職。専門分野は文化財科学、計算機科学、人工知能。洋の東西を問わず料紙の調査、科学分析を実施している。敦煌文書に関する主要業績として「敦煌文書の楮紙における繊維切断工程の存在について」（2019）、「敦煌文書の紙に見られるラグペーパーの存在について」（2018）「敦煌漢文文書の Scientific Codicology」（2016）などがある。

岩本 篤志博士は、立正大学文学部准教授。早稲田大学にて博士号（文学）取得。東洋文庫奨励研究員、新潟大学大学院助手・同助教を経て 2016 年より現職。専門分野は東洋史（魏晉南北朝隋唐史、内陸アジア史）。敦煌文献や現地調査を通して 10 世紀以前のユーラシア大陸における東西文化交渉史の研究に取り組む。主要業績として『敦煌の医薬書と敦煌文献』（2015）、共著『カラテペ テルメズの仏教遺跡』（2020）、「浜田徳海の敦煌写経の蒐集とそのコレクションの性格」（2020）、「敦煌秘笈所見印記小考—寺印・官印・蔵印」（2013）などがある。

高田 時雄博士は、京都大学名誉教授。敦煌学国際連絡委員会幹事長、中国敦煌吐魯番学会海外理事。フランス社会科学高等研究院にて博士号取得、また京都大学博士（文学）。専門分野は言語史、敦煌学。中国語を中心とした言語史研究および敦煌写本を中心とした文献研究において数多の重要な研究成果を刊行し、国内外において高く評価されている。主要業績として『敦煌資料による中国語史の研究』（1988）、『敦煌・民族・語言』（2005）、『近代中國的學術與藏書』（2018）などがあり、『敦煌寫本研究年報』の主編も務める。

詳しくは、下記のウェブサイトをご覧ください。

京都国立博物館

日本語 https://www.kyohaku.go.jp/jp/event/etc/20220319_sym.html (Japanese)

English https://www.kyohaku.go.jp/eng/oshirase/20220319_sym.html (English)

簡体中文 https://www.kyohaku.go.jp/eng/scn/event/20220319_sym.html (Simplified Chinese)

繁體中文 https://www.kyohaku.go.jp/eng/tcn/event/20220319_sym.html (Traditional Chinese)

セインズベリー日本藝術研究所

<https://www.sainsbury-institute.org/>

お問い合わせは、京都国立博物館学芸部調査・国際連携室（電話：075-531-7518、Eメール：research_kyohaku@nich.go.jp）までお願いいたします。